ヘルン研究第3号　目次

はじめに　1

Ⅰ　日本におけるラフカディオ・ハーン

二つの『心』――ハーンと漱石――　小森　陽一　4

文化資源としての作家と文学
――ラフカディオ・ハーンの可能性――　小泉　凡　15

ラフカディオ・ハーン「守られた約束」について
――原話と再話の比較から見えるもの――　川澄亜岐子　20

帝大講師小泉八雲
――講義「読書論」「創作論」「文学と輿論」を中心に――　服部　徹也　32

ハーンと日本人の表情　水須　詩織　47

ハーンと大正日本の想像力――佐藤春夫の場合――　河野　龍也　55

戦後高等学校国語教科書の中の小泉八雲・序説　西田谷　洋　64

文学教育の題材としての小泉八雲
――富山大学の近年の実践例をもとに――　小谷　瑛輔　74

Ⅱ　ラフカディオ・ハーン研究の今

ラフカディオ・ハーンの再話と日本人の文化的記憶の変容
――「和解」を中心に――　結城　史郎　79

ハーンはアメリカでどう読まれたか
――『日本――一つの解明』を中心に――　水野真理子　90

Some More Lafcadio Hearn Materials at the University of Virginia
WILLIAMSON, Rodger Steele　96

ハーン作品のドイツ語版とユダヤ系文化人たち　岩本真理子　105

ヘルン文庫書き込み調査報告
――『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの――　中島　淑恵　110

執筆者紹介・奥付　128

ポスター　129